SNET台湾　みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/745/

エリア

嘉義県

テーマ

歴史　建築　教育　芸術

国立故宮博物院南部院区（故宮南院）

台湾から中華文化、アジア文化を広く見とおそう！

台湾南部の嘉義県に2015年末にオープンした、台北にある国立故宮博物院(以下、台北故宮)の分館です(以下、南院)。博物館建築は水墨画の技法に着想を得たという特徴的なもので、設計は台湾を代表する建築家である姚仁喜(クリス・ヤオ)氏が担当しました。ヤオ氏は、2019年に台湾から日本に進出した複合型書店「誠品生活日本橋」の店舗空間設計を手掛けたことでも話題になりました。台北故宮が「中華文化」を象徴する名品の展示をメインとしているのに対し、南院では台北故宮から提供された作品に加え、新たに収集した作品や、海外から借り受けた作品も合わせて、広く「アジア文化」を体感できるような展示がなされています。

学びのポイント

1.

なぜ南院が造られることになった？

台湾では民主化の進んだ1980年代頃から、台湾南北の文化格差を縮めるという政治課題が重視されるようになり、台北故宮の分館を台湾南部に設けるべきではないかという議論も持ち上がってきました。2000年の政権交代で民主進歩党の陳水扁政権が誕生すると、具体的な南院の新設計画がスタートしました。その後、2008年には再び政権交代が起こりましたが、国民党の馬英九政権の下で2015年12月、南院はついにオープンしました。今のところ南院の周囲にはのどかな田園風景が広がっていますが、これから周辺の観光がどれだけ盛り上がるかも楽しみの1つです。

2.

南院の展示にはどのような特徴がある？

南院建設計画が持ち上がった当時の台湾では、政治体制の民主化と同時に、「台湾は台湾であり、中国の一部ではない」という考え方も住民の間で広がっていました(この現象は、台湾を自分たちの「本土」だと見なすという意味で、「本土化」とも呼ばれます)。それまで台湾の人々は「あなたたちは中華文化の継承者である」と教育されてきましたが、1990年代になると、台湾の文化は多様で豊かなもので、中華文化は台湾の文化を構成する1つの要素に過ぎないといった考え方が人々の支持を得ていきました。そのため南院は、「中華文化」という単一の文化ではなく、広く「アジア文化」を表現し、台北故宮の保有する歴代の中華王朝による美術コレクションも「アジア文化」の一部と位置づけて展示することを目指しました。